説明会及び意見交換会の概要

日　　時	平成２５年　１０月　１１日　（金）　１９：００～２０：３０		
対象団体	気高地域住民	参 加 者 数	２５人
場　　所	気高町総合支所		
出 席 者	山田支所長、安藤副支所長、茅山地域振興課長補佐、小林学校施設係長、校区審議室（神谷、小谷、清水）		

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
1	鹿野中の関連校に気高中と青谷中の名前があるが、鹿野中の生徒は２校に振り分けて通学することになるのか。鹿野中は耐震工事をしないので、廃校という意味なのか。	鹿野中の校舎は耐震工事が完了しており、今のままの校舎が残る。生徒が振り分けられることはない。
2	今でも鹿野中は３学級だが、学校は残るのか。	当然ながら鹿野中も残る。既に３学級という現状や、全体としても生徒数が少なくなっていく推計の中、今後の学校のあり方を地域の皆さんで議論いただきたいということだ。
3	校舎の改築は、統合を見越して、今の生徒数より大きめの規模にするということか。	改築は、現状の生徒数を前提とした設計を行う。人数が増えるかも知れないという前提での設計はしない。
4	気高中と青谷中を統合したり、浜村小を中学校にする話を以前に聞いたことがある。そういう話はどうなったのか。立ち消えになったのか。	今の話は、校区審議会が選択肢の一つとして示していたものだ。３中学校を統合して今の浜村小の位置に、気高の４小学校を統合して今の気高中の位置に建ててはどうかと提案していた。１月以降、各地で意見交換会等を開催して意見の集約に努めてきたが、地域の方向性を出すにはまだ時間が掛かりそうである。結論を待っていては児童生徒の安心安全の確保が後回しになるため、まずは中学校の校舎改築を行ったうえで、本来の学校のあり方の議論をお願いしようということになった。
5	とりあえず改築し、学校のあり方についてゆっくり考える時間を設けましょうということか。	そのとおりである。
6	以前から浜村小に中学校が建てられるという噂があったが、まるでリークするように今回の統合案が出てきた。町中を慌てさせてから、こういった説明会が後で開催されている気がする。住民を慌てさせているといった感が否めない。中学校の改築方針も、また変わる可能性もあるのでは。改築は最終決定なのか。	気高中の校舎改築は決定事項であり、間違いなく気高中の校舎を現位置で建て替える。以前の説明は、一旦校舎を改築すると数十年使うという前提だったが、今は、その後に地域が統合や小中一貫校の選択肢を選んでも、それは認めるという方針に変わった。
7	中学校の改築の説明会と思っていたが、テーマが「西部地域の学校のあり方について」となっている。不満なのは、少子化を前提に全ての計画が組み上げられていること。建築と不動産業を営んでいるが、家を建てる心理で、子供が小学校の入学前か大きくなってからというデータがある。我が子は、浜村保育園が当時満員で入園出来なかった。１５人の同級生も同じように溢れて別の保育園に行ったが、浜村小の入学式で戻った同級生は一人もいなかった。気高町だけで考えると、人口はどんどん増えるので、少子化はあり得ない。少子化というマイナスから物事を考えるのではなく、保育園から中学校まで総合的に制度を整備していく検討会を行政で作り、少子化に対応する根本の議論を行政にお願いしたい。	校区審議会は学校規模の課題を提示しているが、小さい規模の学校は統合するとは一度も言っていない。子供を増やす施策や地域振興策は勿論重要であり、全市的な課題として取り組んでいるところである。存続させるにしても、どんな学校にしていくのか、コミュニティスクールや小中一貫校という形も含め、夢のある学校や面白い学校をどう作っていくかという議論をお願いしたい。校区審議会の会長も、地域との意見交換会に出向き、色々な方向性について具体的に説明されている。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
8	子供たちの安心安全を確保する姿勢を評価する。ひとまず改築するの「ひとまず」という表現に重さを感じている。少子化の将来を見据え、学校の議論を継続する中、仕切り直しという意味なのか、対応年数や設備的に劣る一時的な校舎を建てる意味なのか。後者であっては困る。施設的にしっかりしたものが出来るならよいが、校舎が１０年や２０年もてばよいと考えているなら心配だ。「ひとまず」とはどれくらいの期間を考えているのか。気高中は非常に風当たりが強く、段差のある地形に建っている。強風や積雪等を考えると、子供たちが健全な学校生活を送ることが出来るのか心配の声もある。	「ひとまず」とは、とりあえず建てるという考え方でない。建てるなら簡易なものではなく、これから何十年も使っていく前提での設計になる。今後、学校だけでなく地域や保護者も一緒になって、新校舎設計に向けての要望を取りまとめていただきたい。確認しておきたいのは、学校のあり方の議論はこれで終わりではないという意味で「ひとまず」という表現を使っているということである。
		建てるからには今と同じ位５０年６０年もつ校舎を建てる。他の小学校や中学校と同様の対応年数となるし、改築するからには品質管理も行っていく。塩害は当然把握しており、塩害対策も行っていく。いい加減な校舎を建てることはない。
9	プレハブ校舎をグラウンドに建てるとのことだが、図面では敷地面積が小さかった気がする。	具体的な設計はまだであり、建築場所も決定していない。これより大きな敷地面積になるかも知れないし、グラウンドが小さくなってしまう可能性もある。設計が進む中で、学校や保護者側には、随時に情報提供していくつもりである。
10	今日は逢坂地区と浜村地区の集まりで、中学校の改築には賛成するが、小学校の問題が気がかり。浜村小は５年たっても規模的に心配ないし、問題意識もない状態だが、逢坂小は５年後には２９名。逢坂地区公民館での話し合いの時には、子供たちのことを考えて統合について真剣に話し合わなければとの意識だった。逢坂小のことを忘れずに議論を進めて欲しい。	逢坂地区公民館では熱心な議論が交わされた。子供たちの将来を見据える中、保護者の方を中心に統合も視野に入れた意見が出されたことをしっかり記憶している。気高地区は中学校の耐震問題との兼ね合いで、小学校の議論があまり進まなかったが、今回の改築の決定により、まさにこれからがスタートと言える。地域での組織づくりが進められれば、その組織と校区審議会で協議していければと考えている。
		小学校の校舎では、浜村小の耐震補強が必要。数値的に悪くないものの、わずかに文科省の基準を下回っている。Ｈ２７年度に補強を行う予定であり、後の３小学校は耐震的に問題ない。
11	青谷町の保護者とのやり取りの中で「中学校の部活動が成り立たない」「単独チームが作れない」といった声を聞いている。野球やサッカーは部活動がないので、クラブチームに通わせる。その子が有望なら県外の高校に行ってしまうし、下手すれば中学校で転校というケースも出てくる。合併や統合は政治の事情で仕方ない面もあるが、子供にチャンスを与える環境が出来るのであれば統合にも賛成出来る。才能のある子がスポーツを出来ない環境はとても悲しいことで、これだけは何とか助けていただきたい。今、瑞穂小と逢坂小、浜村小で合同のサーカーチームを組んでいるが、こういった状況についても考慮していただきたい。	部活動の面も大きな課題で、今の話はクラブチームに通うためのサポート制度についての提案だと思う。もちろん教育委員会としても考えていかなければならないが、こういうことも含めて、地域の皆さんが議論を深めていただきたいと感じる。クラブ活動の点からも思いを話し合い地域としての結論を導いて欲しい。